



2026年3月期第2四半期 決算説明会

代表取締役 社長執行役員 森 拓也

2025年12月3日

目次

1. 2026年3月期第2四半期 決算概要	P. 2
2. 2026年3月期 業績予想	P. 11
Appendix ご参考	P. 15

1. 2026年3月期第2四半期 決算概要

2026年3月期第2四半期業績サマリー

連結業績サマリー

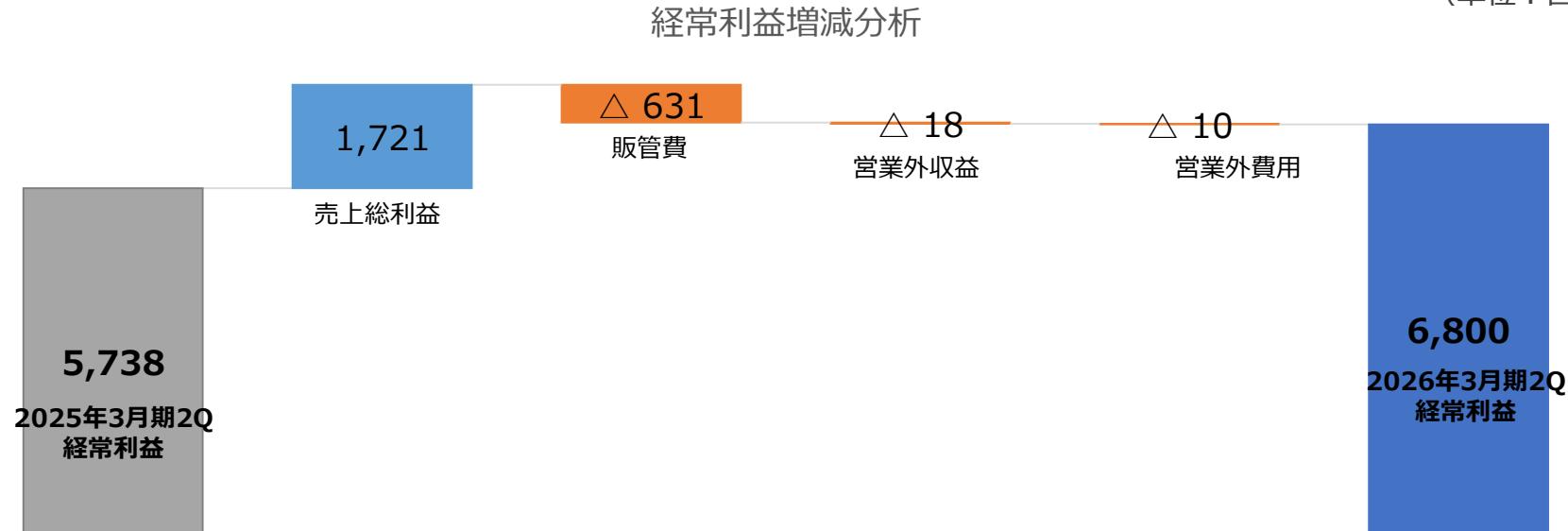
(単位：百万円)	2024年3月期 第2四半期		2025年3月期 第2四半期		2026年3月期 第2四半期		コメント
	実績	前年増減比	実績	前年増減比	実績	前年増減比	
売上高	57,669	21.3%	64,851	12.5%	73,051	12.6%	土木・建築ともに手持工事が順調に進捗し増収
売上総利益	14.9%	8,613	22.3%	16.2%	10,488	21.8%	主に、土木事業の設計変更・原価改善による増収
営業利益	5.7%	3,310	44.0%	8.9%	5,747	73.6%	増収・増益による
経常利益	5.6%	3,220	40.8%	8.8%	5,738	78.2%	
親会社株主に帰属する純利益	3.7%	2,151	43.7%	5.8%	3,733	73.5%	
1株当たり配当金 (中間)	17.0		22.0		40.0		



利益増減分析（前年同期比）

経常利益増減分析

(単位：百万円)



2025年3月期2Q経常利益 5,738 経常利益率 8.8%

売上総利益 1,721 設計変更獲得、原価改善

販管費 △631 人件費、DX関連支出増加

営業外収益 △18 償却債権取立益減少

営業外費用 △10 支払利息増加

2026年3月期2Q経常利益 6,800 経常利益率 9.3%

セグメント別業績

セグメント別 受注高・売上高・売上総利益

(単位：百万円、%)	2024年3月期 第2四半期		2025年3月期 第2四半期		2026年3月期 第2四半期		コメント	
	実績	前年増減比	実績	前年増減比	実績	前年増減比		
受注高	土木事業	28,535	1.4%	43,725	53.2%	34,437	△21.2%	前年度上期に大型工事受注があった反動
	建築事業	19,044	△ 2.8%	29,929	57.2%	35,154	17.5%	PC建築で大型受注獲得
	関係会社事業	11,623	△ 4.8%	10,241	△11.9%	11,148	8.9%	国内子会社増加
	その他事業	184	21.7%	201	9.1%	185	△7.8%	
	連結調整	△ 3,885		△ 3,694		△ 5,879		
	合計	55,502	2.9%	80,404	44.9%	75,047	△6.7%	
売上高	土木事業	32,076	16.5%	32,604	1.6%	36,575	12.2%	潤沢な手持工事が順調に進捗
	建築事業	19,921	36.1%	25,265	26.8%	31,780	25.8%	同上
	関係会社事業	9,676	△ 4.3%	10,474	8.2%	9,852	△5.9%	国内子会社減少
	その他事業	184	21.4%	201	9.4%	202	0.4%	
	連結調整	△ 4,189		△ 3,694		△ 5,359		
	合計	57,669	21.3%	64,851	12.5%	73,051	12.6%	
売上総利益	土木事業	15.5%	4,957	7.7% 18.2%	5,924	19.5% 19.4%	7,096	19.8% 2 Q完成工事で設計変更獲得、原価改善あり
	建築事業	11.9%	2,364	123.5% 10.6%	2,670	12.9% 9.0%	2,861	7.2% 増収影響
	関係会社事業	13.9%	1,344	0.8% 17.6%	1,840	36.9% 21.8%	2,148	16.8% 国内子会社増加
	その他事業	27.4%	50	5.9% 30.0%	60	20.1% 30.1%	60	0.7%
	連結調整	△ 103		△ 7		42		
	合計	14.9%	8,613	22.3% 16.2%	10,488	21.8% 16.7%	12,209	16.4%

※ 2026年3月期よりセグメント情報は従来の「土木事業」「建築事業」「製造事業」「その他兼業事業」から「土木事業」「建築事業」「関係会社事業」「その他事業」の4区分に変更しています。

従来の各セグメントに含まれていた「関係会社事業」は独立セグメントとなり、従来の「製造事業」は「関係会社事業」に含まれます。

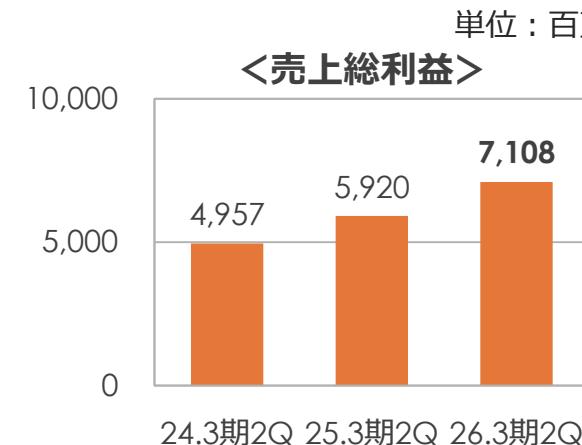
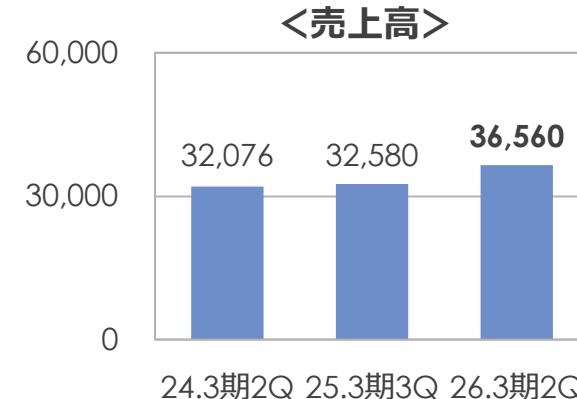
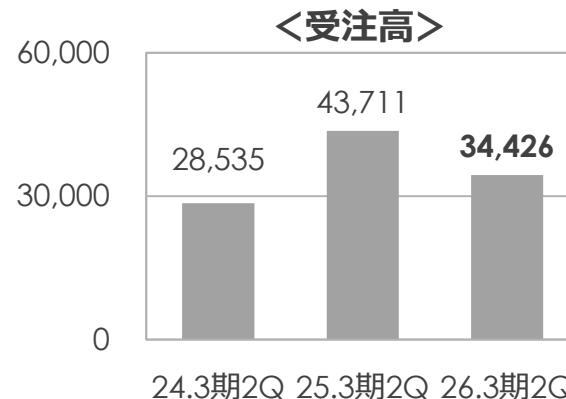
土木事業

業界環境

- 主力事業であるNEXCO関連事業は減少傾向が想定されるものの、今後10年程度は継続する見通し
- 国・地方自治体の新設橋梁工事は減少する一方で、メンテナンス工事が増加する見通し

業績推移

単位：百万円



- 受注高：前年度上期に大型工事受注があった反動で、前期比21%減少
- 売上高：豊富な手持工事が順調に進捗した結果、前年比12%増加し增收
- 売上総利益：原価改善、設計変更獲得した結果、前年比20%増加し増益

主な大型受注案件

工事名	工事概要
中国自動車道 高梁川橋床版取替工事	床版取替:約3.0千m ²
中央新幹線 加賀美高架橋	PC3径間連続ラーメン箱桁橋 橋長：200m 他
一般県道松原芋島線 川島大橋 P C床版工事	PC床版製作・架設 橋長：356m

建築事業

業界環境

- 非住宅建設投資が堅調に推移しており、日本建設業連合会加盟の92社の民間建築工事受注額も年々増加しているなど、良好な事業環境
- 防衛力整備として、2023年度から5年間で約4兆円の施設強化化予算が計画されている
- 人件費、資材費の高騰による工事費の上昇や設備業者の確保が大きな課題となっている

業績推移



- 受注高 : 受注環境改善に伴い、大型受注獲得により増加
- 売上高・売上総利益 : 繰り返しの増加、手持工事の順調な進捗により増収増益

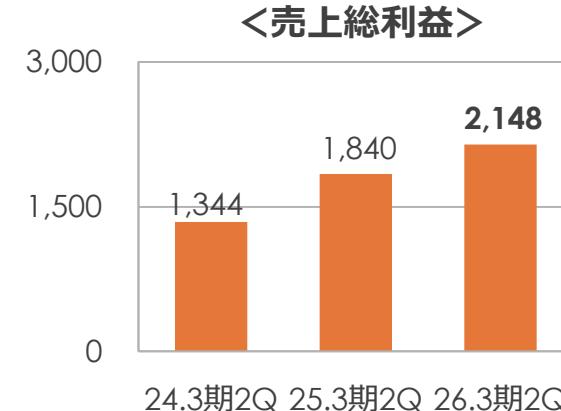
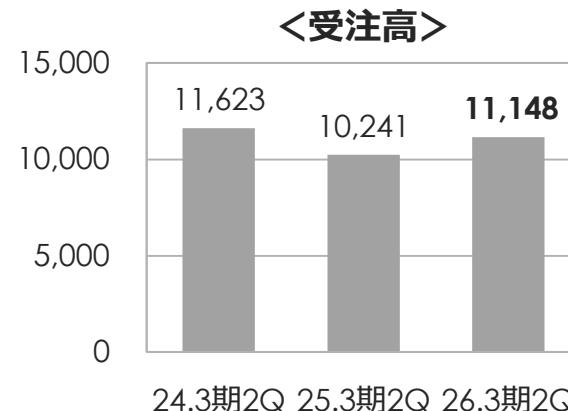
主な大型受注案件

工事名	工事概要	
豊前市立豊前中学校整備新築工事	教育施設 RC造4階建	延床面積 約10,000m ²
某工場新築工事	工場 S造4階建	延床面積 約4,100m ²
某医療施設増築工事	医療施設 S造3階建	延床面積 約1,600m ²

関係会社事業及びその他兼業事業

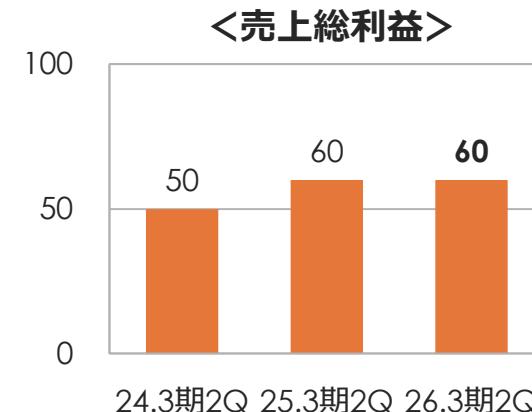
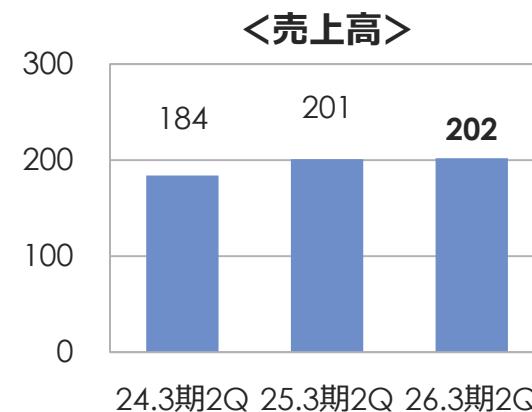
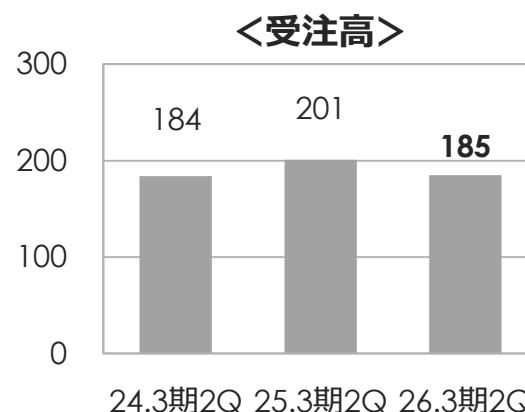
関係会社事業 - 業績推移

単位：百万円



その他事業 - 業績推移

単位：百万円



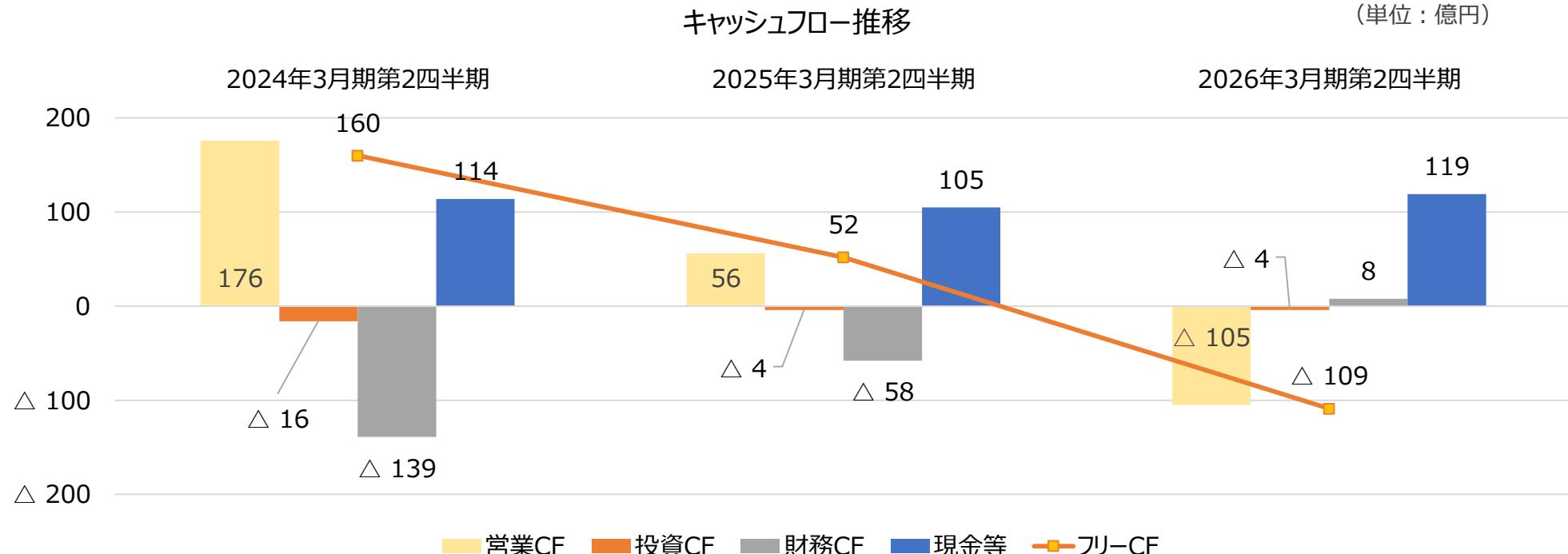
貸借対照表

連結貸借対照表の主な項目

(単位：百万円)	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 第2四半期	コメント	
	①実績	②実績	③実績	④前期末比(③-②)	
資産合計	122,118	130,836	135,799	4,963	
流動資産	95,503	104,616	109,683	5,066	
現金預金	11,163	22,100	11,953	△ 10,147	売掛債権増加による減少
受取手形・電子記録債権、完成工事未収入金・契約資産	77,269	75,069	88,406	13,336	工事進捗に伴う増加
未成工事支出金	2,455	3,425	3,267	△ 157	
その他の資産	4,615	4,021	6,055	2,034	未収入金増加
固定資産	26,614	26,220	26,116	△ 103	
有形固定資産	16,642	16,718	16,638	△ 80	
無形固定資産	188	59	49	△ 9	
投資その他の資産	9,783	9,442	9,429	△ 13	投資有価証券増（時価評価）、繰延税金資産減少
負債合計	69,947	72,955	75,567	2,611	
流動負債	54,293	61,742	67,388	5,646	
支払手形・工事未払金等、電子記録債務	29,018	23,823	30,940	7,116	工事進捗に伴う増加
短期借入金	11,178	13,860	20,260	6,400	
固定負債	15,653	11,213	8,178	△ 3,035	
長期借入金	9,060	4,700	1,620	△ 3,080	1年内返済長期借入金の短期振替
純資産合計	52,170	57,880	60,232	2,352	
株主資本	47,974	53,890	55,823	1,932	剰余金配当、当期純利益計上
その他包括利益累計額	4,195	3,989	4,409	419	有価証券評価差額金増
負債純資産合計	122,118	130,836	135,799	4,963	

キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの状況



	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期
営業CF	176	56	△105
投資CF	△16	△4	△4
フリーキャッシュフロー (Free CF)	160	52	△109
財務CF	△139	△58	8
現金等	114	105	119

2. 2026年3月期 業績予想

各セグメントの外部環境と今後の見通し

土木事業

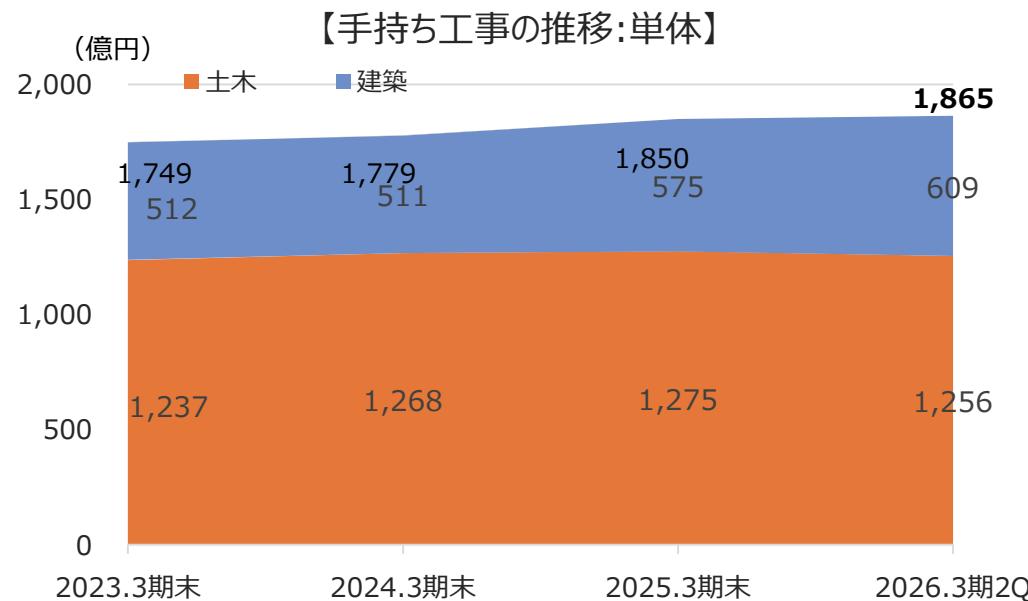
- 2025年度の公共事業関係費は、ほぼ前年並み。また、2026年度からの「国土強靭化実施中期計画（5年間）」では、「事業規模：20兆円強程度を目指す」との方針
- NEXCO関連の大規模更新・修繕事業は、減少傾向が想定されるものの、今後10年程度は継続する見通し
- 国・地方自治体においては、メンテナンス工事が増加する見通し。国交省は、2025年10月に「群マネの手引き」を公表し、「地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）」を推進（全国展開）する見通し

建築事業

- 2025年度の住宅と非住宅を合わせた民間建設投資額は、前年度比微増の36兆7,000億円の見通し。2026年度は、前年度比5.1%増の38兆6,000億円の見通し
- 防衛施設強靭化として、2023年度から5年間で約4兆円の予算が計画されている。特に九州・沖縄地区において大型PCa採用計画案件が増加傾向にあるため、PJチームを組成して予定案件の確実な受注に注力する
- 建設技能労働者不足によりPCaの需要拡大が見込まれる。省人化や環境配慮といったPCaの優位性に訴求した営業展開や、自社及び協力提携工場の供給網を活用した高品質PCa部材供給の強化を図る

手持ち工事量は1,865億円で高水準を維持

- 土木事業では大規模更新・修繕事業を主軸に1,256億円、建築事業においては609億円と高水準を維持
- 担い手不足や時間外労働の上限規制を踏まえ、現場支援体制の強化や外注化を積極的に進め、効率的な生産体制を整備するとともに、今年度新設したDX推進室を中心に、生産性の向上に注力



業績予想及び配当予想

連結業績予想及び年間配当予想

(単位：百万円、%)	2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期			コメント
	実績	利益率	実績	利益率	予想	利益率	増減率	
受注高	132,896		142,115		140,000		△ 1.5%	建築事業、関係会社事業減少
売上高	129,294		135,627		146,000		7.6%	手持工事が順調に進捗
売上総利益	18,787	14.5%	23,032	17.0%	23,400	16.0%	1.6%	過去最高益を予想
営業利益	7,827	6.1%	12,315	9.1%	11,700	8.0%	△5.0%	
経常利益	7,743	6.0%	12,252	9.0%	11,500	7.9%	△6.1%	人的資本・技術開発への投資を積極的に行うことにより、営業利益以下は過去最高を記録した前期から減益となる見込
親会社株主に帰属する純利益	5,054	3.9%	8,217	6.1%	7,900	5.4%	△3.9%	
1株当たり年間配当金	44円		72円		102円 中間40円 期末62円			期首計画（年間配当80円）から22円増配



セグメント別業績予想

セグメント別受注高・売上高・売上総利益

(単位：百万円、%)	2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期		コメント	
	実績	増減率	実績	増減率	予想	増減率		
受注高	土木事業	70,670	△ 16.9%	69,976	△1.0%	70,400	0.6%	前期並み
	建築事業	48,550	△ 7.6%	58,986	21.5%	57,000	△3.4%	前期大型新規受注増の反動減
	関係会社事業	24,793	0.5%	29,432	18.7%	26,687	△9.3%	
	その他事業	386	25.9%	403	4.5%	404	0.0%	
	連結調整	△ 11,504		△ 16,683		△ 14,491		
	合計	132,896	△ 11.8%	142,115	6.9%	140,000	△1.5%	
売上高	土木事業	67,415	10.5%	68,568	1.7%	71,000	3.5%	潤沢な手持工事が順調に進捗
	建築事業	48,297	32.7%	52,857	9.4%	62,000	17.3%	同上
	関係会社事業	24,899	5.3%	25,738	3.4%	25,719	△0.1%	
	その他事業	386	25.9%	403	4.5%	400	△0.9%	
	連結調整	△ 11,703		△ 11,941		△ 13,119		
	合計	129,294	18.3%	135,627	4.9%	146,000	7.6%	
売上総利益	土木事業	15.5%	10,451	10.9% 19.2%	13,145	25.8%	19.4%	13,750 4.6% 原価改善、設計変更獲得
	建築事業	9.9%	4,793	79.6% 9.7%	5,116	6.7%	8.8%	5,480 7.1% 増収影響
	関係会社事業	14.0%	3,478	8.2% 18.3%	4,715	35.5%	15.9%	4,080 △13.5%
	その他事業	29.2%	112	12.5% 29.7%	120	6.3%	30.0%	120 △0.0%
	連結調整		△ 48		△ 65		△ 30	
	合計	14.5%	18,787	21.0% 17.0%	23,032	22.6%	16.0%	23,400 1.6%

※ 2026年3月期よりセグメント情報は従来の「土木事業」「建築事業」「製造事業」「その他兼業事業」から「土木事業」「建築事業」「関係会社事業」「その他事業」の4区分に変更しています。

従来の各セグメントに含まれていた「関係会社事業」は独立セグメントとなり、従来の「製造事業」は「関係会社事業」に含まれます。

Appendix. ご参考

会社概要・沿革

会社概要	
名 称	ピーエス・コンストラクション株式会社
本 社	〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目 9番 1号 東京汐留ビルディング18階 Tel (03)-6385-9111
設 立	1952年3月1日
資 本 金	42億1,850万円
上 場	東京証券取引所プライム
事 業 内 容	<p>1.プレストレストコンクリート（PC）工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</p> <p>2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理</p> <p>3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業</p> <p>4.プレストレストコンクリート（PC）製品及びプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売</p> <p>5.プレストレストコンクリート（PC）工事用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸</p> <p>6.鉱物の採掘及びその請負</p> <p>7.不動産の売買、賃貸及びそれらの仲介ならびに所有管理</p> <p>8.運送業及び倉庫業</p> <p>9.損害保険代理業及び生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業</p> <p>10.前各号に関連ある一切の業務</p>

沿 革		
	(株)ピー・エス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業（現 三菱重工業(株)）七尾造船所の諸施設及び従業員を引き継ぎピー・エス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉱業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1991	(株)ピー・エスに社名変更	
2002		合併により(株)ピー・エス三菱発足
2004		ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd .設立
2012		インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立
2022		東京証券取引所市場第一部からプライム市場へ移行
2023		大成建設(株)による株式公開買付けにより、同社が親会社へ異動
2024	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社である(株)ピーエスケーが、PC工事向けコンクリート二次製品用鋼製型枠及び架設機材の設計・製作を目的とする関係会社、(株)東葉製作所を子会社化 (株)ピーエス三菱からピーエス・コンストラクション(株)に社名変更 	

グループネットワーク

ピーエス・コンストラクショングループ[®]（主要国内5社）



支店

- ・東京土木支店
- ・東京建築支店
- ・札幌支店
- ・東北支店
- ・大阪支店
- ・名古屋支店
- ・広島支店
- ・九州支店

営業所

- ・22箇所

株式会社ピーエスケー



PC工事における機材の企画・設計・製作・貯蔵・販売、資材の製造・販売及びこれらの運用・活用に関するエンジニアリング



道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル



PC製品の製造販売



建築資材販売、物流、不動産関連など



土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

国内工場ネットワーク



七尾工場（石川県）



北上工場（岩手県）

兵庫工場（兵庫県）

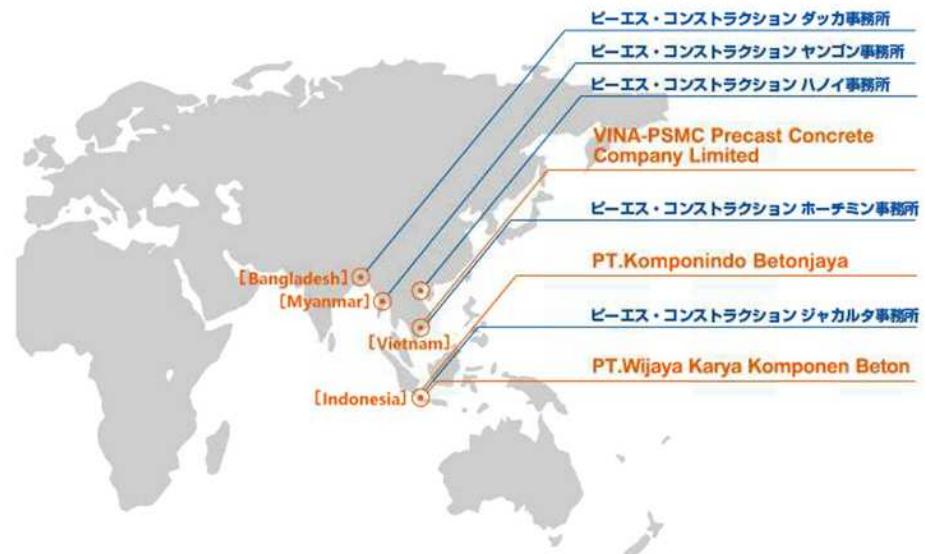
茨城工場（茨城県）

水島工場（岡山県）

滋賀工場（滋賀県）

久留米工場（福岡県）

海外ネットワーク



※2025年9月26日に開示しましたとおり、当社は2026年4月1日に連結子会社であるピーエス・コンクリート株式会社を吸収合併いたします。

事業構成

建築建設事業

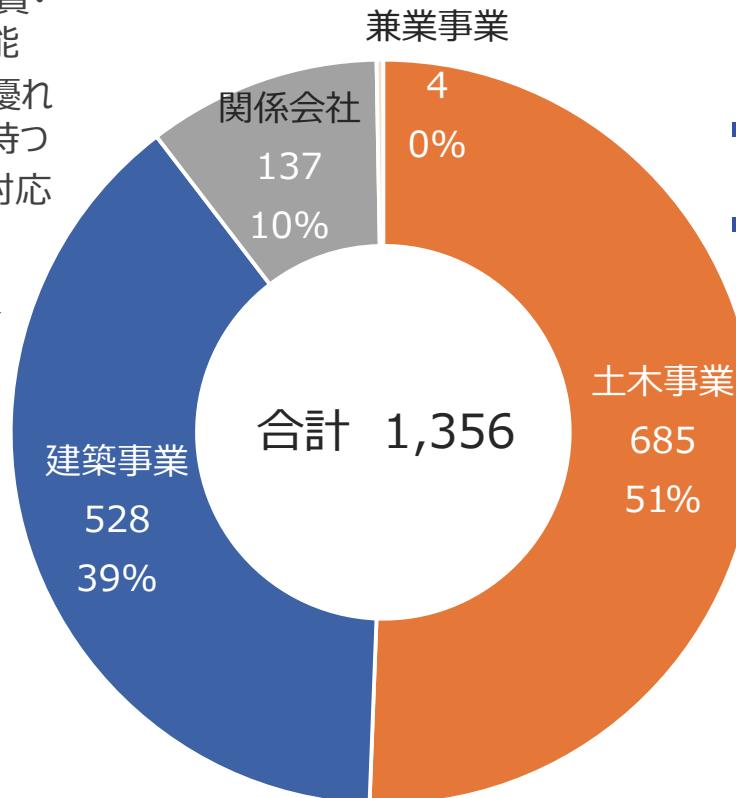
【強み】

- プレキャスト（PCa）工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供
- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売



学校法人簡野学園 羽田国際高等学校 [東京都]

セグメント別売上高



セグメント別売上高・構成比率
(2025.3月期 単位：億円)

土木建設事業

【強み】

- 日本におけるプレストレストコンクリート（PC）の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップカンパニーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開



東海環状自動車道 政田第三高架橋他2橋
(PC上部工) 工事 [岐阜県]

その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介
- 損害保険代理店事業

プレストレスコンクリート（PC）技術とプレキャスト（PCa）技術とは

プレストレスコンクリート（PC）とは

PCは「高強度の鋼材によって、あらかじめ（プレ）応力（ストレス）を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点である“引張には弱い”を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、梁の高さを抑えながら、その長さを大きく取ること（大スパン化）ができます



プレキャスト（PCa）とは

現地以外の工場などで、あらかじめコンクリート部材を製作することです

- 工場で生産されるため、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組みコンクリートを施工する場合より、騒音や粉じんの発生を抑え周辺の環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます





将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

IRに関するお問い合わせ先

ピース・コンストラクション株式会社 管理本部 総務部 広報・IRグループ
〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目9番1号 東京汐留ビルディング
TEL : 03-6385-8002 FAX : 03-6316-2321 メールアドレス : koho.ir@psc.co.jp